



校長室だより

令和8年度

7月10日

NO. 14

どうしたら泳げるかな?気持ちよく泳ぎたいな...水泳の楽しさを感じて。

「体育という教科について、一見すると、大変個人差の激しい教科のように見られやすい。それは私たちが『結果主義』の目でながめるからである。」

『学び』を問いつづけて (小学館) 佐伯 胖著



水泳学習では一人一人の力に合わせて、練習をします。水泳の楽しさを味わわせたいです。

梅雨明けはまだですが、少しずつ暑い夏が戻ってきたように感じます。雨音のない秦梨には、行き交う車の音、流れる乙川のせせらぎ、そして小鳥のさえずりが優しく響きます。

山間の秦梨小のプールも、この時期だけはにぎやかな声が響きます。今年から始まった全校水泳授業の参観が八日に行われました。(学習指導要領では一・二年生は水遊びといっています。)梅雨の間ですが、夏の太陽も顔をのぞかせた気持ちのいいプールで、全員がたつぷりと泳ぐことができました。

水泳は先生にとっても専門的な技能が必要となります。スイミングスクールが近くにあるわけではないので、泳力を伸ばすためには学校での授業が大事になります。市内でもスイミングで授業を行う学校もあります。同様に小学校にはこうした専門的な力が必要な場合があります。理科の実験や授業は、市内でも担任でなく理科の専門の先生が授業を行うところは多くあります。国語でも読書感想文や生活作文、書写、そして図工のポスターなども専門的な技能と言えるかもしれません。

忙しい中、先生たちはそうした勉強もしなければなりません。もちろんそうした方法を教えたりしますが、それ以上に、子供たちには、挑戦させたり楽しさを感じさせたりすることが大事になります。むしろそちらが本質であると言えるでしょう。水泳指導を通して学校の先生は、水泳選手を育てるのではなく、挑戦したり工夫したり、仲間と協力したり楽しんだりすることで、泳げるようにさせることを、身に付けさせないといけません。

それは、子供の自主性と関わりますが、実はこの自主性を育てることは難しいと言われます。だからこそ保護者や地域の方も含め、大人が子供に寄り添い、支えることが大切だと思います。

- ・7月8日の全校水泳授業参観、保護者懇談会の方、ありがとうございました。お子さんの頑張る様子を見ていただき、懇談会では学校やご家庭の様子を共有できたことと思います。
- ・残り1週間で、夏休みを迎えます。夏休みに向けて準備していきたいです。